

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月24日

【評価実施概要】

事業所番号	4570500225		
法人名	医療法人相愛会		
事業所名	グループホームあったか村		
所在地	宮崎県小林市大字北西方3251-2 (電話) 0984-21-5187		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成20年11月20日	評価確定日	平成20年12月24日

【情報提供票より】 (平成20年10月22日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成14年5月20日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	27 人	常勤15人, 非常勤12人, 常勤換算23.3人	

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	192 円	昼食 294 円
	夕食	294 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成20年10月22日現在)

利用者人数	27名	男性 1名	女性 26名
要介護1	2	要介護2	6
要介護3	12	要介護4	3
要介護5	4	要支援2	0
年齢	平均 87歳	最低 76歳	最高 100歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人相愛会 桑原記念病院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは霧島連峰を望む民家の中にあり、山間の樹木や茶畑が一望できる静かな場所にある。全職員が利用者の判断力や希望を表出する力を引き出す取り組みや工夫を行っている。利用者が意思伝達できない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチし、日々の密接な関係やなじみの中で積極的な支援がなされている。地域密着型を常に意識し、地域の行事に機会あるごとに出かけたり、ホームを訪問してもらうなど相互交流に努めている。理念は全職員からの意見を取り入れ、家庭的で共に助け合いゆっくり生活できることを掲げている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価の改善課題について改善評価シートが作成してある。介護計画の見直しは3か月ごとに、評価も介護の状況に合わせて毎月行うよう実践されているが、退院後等の見直しがされていない。災害時における地域との連携が取れていない。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価については、全体ミーティングで目的や意義を話し合い、自己評価票を職員の休憩室にも置き、職員が話しやすいようにしている。評価作業の一連の過程を通じて全職員が理解し、サービスの質の向上に主体的に取り組んでいる。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2か月に1回開催し、ホームの懸案事項等について話し合いを行っている。また、運営推進会議で出された検討事項を職員で協議し、利用者支援のために前向きに実践している。外部評価の結果についても報告し、具体的な改善シートを作成して改善に取り組んでいる。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 相談窓口を設けたり、家族の来訪の際に、近況を報告するようにしている。また、意見箱を各館に設けている。金銭管理については、定期的に家族等に郵送し、備考欄に近況報告を行っている。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の保育園との相互交流や敬老会への参加をしている。民生委員、ボランティアの協力もあり、気楽に立ち寄れる状態になっている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念を決めるにあたり、全職員の意見を取り入れ、家庭的で共に助け合い、ゆっくりした生活ができることを掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は日々、目につく場所や各館に掲示し、意識づけをしている。また、月1回の全体ミーティングでも理念について確認しあいながら、日々の業務に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の保育園との相互交流や敬老会への参加、民生委員、ボランティア等の協力がある。地域の住民の方が気楽に立ち寄れる状態になっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	運営者、管理者、職員共に、自己評価及び外部評価の意義をとらえ、改善項目を積極的に検討し取り組んで行こうとする姿勢がある。また、職員休憩室に自己評価表、各館に外部評価表を置き、改善に向けて取り組んでいることが聞き取りより得られた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を開催している。会議の内容は全職員に周知し、会議で出された意見についても前向きに検討し、サービスの向上につなげていく等の取り組みがなされている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外に、ホームの運営等で困った時は、市町村の担当に相談したりする等、共有しながらサービスの質の向上を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	金銭管理については、定期的に家族等に郵送し、備考欄に利用者の近況報告を行っている。職員の異動は、ホーム便りで報告し、家族の来訪時にも利用者の近況報告がなされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談窓口を設けたり、家族の来訪の際に、利用者の近況を報告するようにしている。また、意見箱を各館に設けているが、意見や苦情を引き出すための工夫について、検討しているところである。意見や苦情が出やすい雰囲気づくりに努めている。	○	運営に関する家族の意見を聞き出せる工夫を前向きに検討されているが、さらなる職員間でのアイディアに期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職の際は職員と面談を行い、段階を踏んでの異動に心がけ、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。また、異動はホーム便りに載せたり、利用者で紹介をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現場で共に考え、助言する人材を組織の内部に確保できてないとして項目にチェックされているが法人内・外の定期的な研修、県西地区グループホーム連絡協議会やネットワーク、介護支援専門員連絡協議会に積極的に参加している。働きながら学ぶ機会もあると職員とのヒヤリングで聞き取れた。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内・外の定期的な研修、県西地区グループホーム連絡協議会やネットワーク、介護支援専門員連絡協議会に積極的に参加して交流を行っている。研修の報告は全体ミーティングで行い、申し送り簿に記載し、全職員で共有する取り組みを行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族や利用者に事前に訪問していただいたり、体験利用をしていただきながら、なじみの関係を築くように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の方から学ばせていただいているという姿勢が職員にあり、一人ひとりの個性を重視しながら支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の日々の行動や表情を把握し、寄り添いながら暮らし方の希望や意向を聞き、家族にも相談や連絡を行っている。また、利用開始前の生活状況や環境を参考にしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族にも意見を聞き、また、職員全体で意見交換を行い、アセスメント・介護計画がしっかりとなされているが、アセスメント領域の中に利用者や家族の思いや願いが引き出せていない。	○	アセスメント領域の中に利用者や家族の思いや願いが引き出せると、地域でその人らしく暮らし続けるための個別の介護計画が作成できるので、工夫をもう一步と職員間でアイデアを出し合って作成されることを期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しは実施しているが、その都度の見直しがなされていない。	○	本人、家族、関係者等が話し合う機会を作り、その時々の実情に照らし合わせて気づきや意見を反映し、また、臨機応変に介護計画の見直しをしていくことが望まれる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	認知症対応型通所介護と短期利用共同生活介護の指定を受けており、相談があれば受け入れる体制がある。個別対応の外出や病院受診をし、必要に応じた多様な支援を提供している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。受診や通院は本人や家族の希望に応じて対応している。基本的には家族同行の受診となっているが不可能な時には職員が行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化対応指針マニュアルが作成されている。職員間で、ターミナルケアについての内部研修を行い、方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりのプライバシーに配慮した言葉かけや尊重したケアが行われている。また、利用者の状態に合わせた、職員の配慮がうかがえるケアが行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の準備や片づけは、利用者の状態に応じてペースに合わせた暮らしの支援がなされている。職員は日々の生活の中で利用者のペースを守るための工夫をしていくことの大切さを理解している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は、重度化に伴い、食事等の介助に時間を要するが、利用者一人ひとりのペースで、楽しんで食事ができる温かい雰囲気を大切にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日の入浴となっているが、状態や状況に合わせた入浴方法を行っている。希望に合わせた入浴ができる工夫をしていくことの必要性を職員は理解している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野で一人ひとりの力が出せるように、声掛け等をして一緒に行ったり、利用者の経験や知恵を発揮する場面を作っている。ドライブ、外食、散歩、壁絵作り等、職員は楽しみ事を作り出す働きかけをしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の本人の状態に合わせて、心身の活性につながるように、外食、植木市、花火大会、洋服や食材調達の買い物をして、地域にも顔なじみになっていただき、ストレス発散や季節の移り変わりを楽しめる支援を行っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	危険なものが収納されている場所や風呂場は施錠を行っている。居室や玄関に鍵を掛けることはなく、自由な暮らしを支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	通報訓練を年2回、消防署の立ち合いで年2回の火災総合訓練を実施している。地域の協力体制がまだ十分整っていない。	○	地域の消防団、地域住民や警察署等との連携を図りながら、事業所の災害時対策に関する理解を求め、協力体制を築いていかれることを期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量をチェックして、職員が情報を共有している。栄養士の専門的指導を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	のれんや壁飾りが家庭的な雰囲気をもち、食堂には、椅子やソファが置かれ、利用者がゆっくりとテレビ観賞したり、会話を楽しんでいる。快適な生活空間づくりがなされており、居室から眺められる外の景色は光や風の動き、木々の変化を感じ取れる環境にある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は本人や家族と相談しながら、使い慣れた物や好みの物を活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者の希望に応じて、家族の写真や使い慣れた日用品、カレンダー等が持ち込まれ、居心地良く暮らせるように配慮されている。		

※  は、重点項目。